

科目番号：02DD013 授業科目名： 研究発表演習Ⅰ(3)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 廣瀬 幸生 言語学分野教員全員
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 自らの研究内容を論理的に発表する能力，ならびに言語横断的な議論に参加できる能力を身につける。			
【授業の概要】 原則として中間評価論文を執筆した言語学分野に所属する学生が、学生および教員（他領域を含む）を前にその内容を発表し、領域横断的な議論を行う。			
【授業計画】 原則として毎月最終木曜日6時限に実施する。具体的なスケジュールは追って提示する。 1学期：オリエンテーション・学生の発表 2学期：学生の発表および招待講師の講演 3学期：学生の発表（場合により招待講師の講演含む） 発表の際には、各自ハンドアウトを用意すること。その際、英語と日本語以外の例文についてはグロスand/or日本語ないし英語による訳を付すことが望ましい。 4月のオリエンテーションで具体的な日程を決める。			
【テキスト】 なし			
【参考書】 なし			
【学生に対する評価】 毎回の出席と1回の発表を義務付ける。それぞれの発表，ならびに議論への参加を総合的に評価する。			

科目番号：02DD023 授業科目名： 理論言語学の方法と実践(3)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹沢 幸一・加賀 信広
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 理論言語学、特に生成統語論について、その基本的な考え方と分析法を学ぶことにより、独力で関連の専門論文を読みこなし、さらに先端の理論的座標に立って文法研究ができるようになる。			
【授業の概要】 理論言語学、特に生成統語論について、その基本的な考え方と分析法を学ぶ。独力で関連の専門論文を読みこなし、さらに先端の理論的座標に立って文法研究を実践するためのトレーニングを行う。			
【授業計画】 1 学期：生成統語論の基本を学び、原理とパラメータの考え方の下で具体的な文法現象について分析を行なう。 2 学期：生成統語論の最近の動向に目を向け、日英語の文法現象についてのより進んだ説明法について考察する。			
【テキスト】 適宜、授業の中で指示ないし紹介する。			
【参考書】 適宜、授業の中で指示ないし紹介する。			
【学生に対する評価】 評価は、授業への参加度と学期末レポートにより行なう。			

科目番号：02DD105 授業科目名： 総合文学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 加藤 百合・浜名 恵美 吉原 ゆかり・齋藤 一
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】			
【授業の概要】 多様な素材と地域を対象に文学の総合的研究方法を発表形式で身につける。			
【授業計画】			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD120 授業科目名： 文学文化論研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：齋藤 一
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 前世紀後半から2000年代にかけて、特に日米欧において影響力をもった文学・文化批評理論のカギとなる概念を学ぶ。			
【授業の概要】 日本語で文学理論入門書を読み、作品分析への応用方法を考える。テキストは大橋洋一編『現代批評理論のすべて』（新書館、2006）を予定しているが、受講する学生の要望に応じて適宜調整する。			
【授業計画】 受講する学生の専門分野に応じて適宜調整する。			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD124 授業科目名： 文学文化論演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：齋藤 一
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 前世紀後半から2000年代にかけて、特に日米欧において影響力をもった文学・文化批評理論のカギとなる概念を学んだ上で、その応用を実践的に学ぶ。			
【授業の概要】 日本語で文学理論の論文を読む。特にポストコロニアル批評に重点をおき、作品分析への応用方法を考える。テキストは受講する学生の要望に応じて適宜調整する。			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD129 授業科目名： 文学交流論研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：吉原 ゆかり
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 日本語あるいは英語で書かれた論文を精確に読み、自分の論文に効果的に取り入れる方法を身につける。			
【授業の概要】 文学交流に関わる研究論文を読む。			
【授業計画】 1学期、担当教員が、学术论文の読み方の実例を示す。 2学期以降、学生が発表を担当する。			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】 授業への積極的な参加50% 期末課題50%			

科目番号：02DD135 授業科目名： 文学交流論演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：吉原 ゆかり
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 文学、文化の交流にかかわる文字テキストを精読し、周辺資料を探索し、テキストの読みを深める基本的調査能力をつちかう。			
【授業の概要】 文学交流論に関わるリサーチと研究の実際を学ぶ			
【授業計画】 1学期におおむね2-3作品を扱う。 1. 授業参加者全員で、作品の精確で深い読みを行う。 2. 関係資料を探索する。従来の、紙媒体の資料のみならず、電子資料探索の方法をあわせて身につける。文学関係の文字資料にとどまらず、広く文化や政治、社会に関連した資料を探索する技術を身につける 3. 上の作業をふまえて、レポート制作の構想をたてる。			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】 授業への積極的な参加 50% 期末課題 50%			

科目番号：02DD144 授業科目名： 比較文学演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：加藤 百合
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】			
【授業の概要】 明治10年代から日露戦争の頃までの文藝の変化について、初出の形での読みを学ぶ。			
【授業計画】			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD150 授業科目名： 総合文化研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：浜名 恵美
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】			
【授業の概要】 翻訳研究を通じて文化について総合的に考察する。			
【授業計画】			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD155 授業科目名： 総合文化演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：浜名 恵美
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】			
【授業の概要】 文化に関わる対象やテーマに関して、参加者各自の研究成果を発表し、それについて議論する。			
【授業計画】			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD160 授業科目名： 比較文化論研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：平石 典子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】			
【授業の概要】 比較文学・文化の手法を用いて、テキストを分析する。			
【授業計画】			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD165 授業科目名： 比較文化論演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：平石 典子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】			
【授業の概要】 比較文学・文化の手法を用いて、外国語で小論を作成する。			
【授業計画】			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD180 授業科目名： 西洋古典学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：秋山 学
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 紀元前5世紀、古典期アテナイにおける悲劇作品群は、文学作品としてわれわれの感動を呼ぶばかりでなく、古典古代世界の社会を反映する史料としても無類の価値をもつ。古典ギリシア語テキストの精読を通して、歴史の流れを解き明かすトレーニングを行う。			
【授業の概要】 古典ギリシア文学研究。ギリシア悲劇を原典で講読する。			
【授業計画】 第1学期：エウリピデス(B.C.485-406)作『トロイアの女たち』（415年上演）の講読とあわせて、トゥキュディデス『戦史』第5巻84章以下の「メロス島民大虐殺」を参照し、史実と文学作品の関連を探る。 第2学期：ソフォクレス(B.C.496-406)作『コロノスのオイディプス』（401年上演）の講読とあわせて、アポドロロス『ギリシア神話』における神話の体系的記述を参照し、神話伝承の劇化について考える。 第3学期：アイスキュロス(B.C.525-456)作『ペルシア人』（472年上演）の講読とあわせて、ヘロドトス『歴史』第8巻56章以下の「サラミスの海戦」を参照し、史実の劇化について考える。			
【テキスト】			
【参考書】 授業時に適宜指示する。			
【学生に対する評価】 授業時における訳出の正確さ（70%） 授業への積極的参加（30%）			

科目番号：02DD185 授業科目名： 西洋古典学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：秋山 学
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 紀元前1～後1世紀、共和政末期から帝政初期にかけてのローマにおける叙事詩作品群は、文学作品としてわれわれの感動を呼ぶばかりでなく、古典古代世界の社会を反映する史料としても無類の価値をもつ。古典ラテン語テキストの精読を通して、歴史の意味を問うトレーニングを行う。			
【授業の概要】 古典ラテン文学研究。ラテン叙事詩を原典で講読する。			
【テキスト】			
【参考書】 授業時間中に適宜指示する。			
【学生に対する評価】 授業時における訳出の正確さ（70%） 授業への積極的参加（30%）			

科目番号：02DD186 授業科目名： 古典古代学研究(1)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：秋山 学
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 <p>紀元後1世紀、パレスティナからローマへと初期キリスト教共同体が展開する過程を活写した『使徒行録』は、新約聖書の一文書であるばかりでなく、ローマ社会を反映する史料としても無類の価値をもつ。コイネー・ギリシア語テキストの精読を通して、時代の動きを読む鍛錬を行う。</p>			
【授業の概要】 <p>ギリシア語教会文献研究。新約聖書『使徒行録』をギリシア語原典で講読する。</p>			
【授業計画】 <p>第1学期：『使徒行録』冒頭からの講読とあわせて、主要登場人物であるペトロによる『第1ペトロ書簡』を参照し、神学と史的記述の関連を探る。</p> <p>第2学期：『使徒行録』の講読を継続しつつ、作品中盤以降の主要人物となるパウロによる書簡群（特に『コリントの教会への書簡1，2』）を参照し、史的記述における人物像の構築について考える。</p> <p>第3学期：『使徒行録』の講読を継続しつつ、同じ著者ルカによる『ルカによる福音書』を参照し、共同体の成立・意味・活動について考える。</p>			
【テキスト】			
【参考書】 <p>授業時間中に適宜指示する。</p>			
【学生に対する評価】 <p>授業時における訳出の正確さ（70%） 授業への積極的参加（30%）</p>			

科目番号：02DD191 授業科目名： 古典古代学演習(1)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：秋山 学
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 <p>古典古代学の研究に際しては、ギリシア語・ラテン語ばかりでなく、近代ヨーロッパ語を広く修得していることが求められる。それに加え、古典語からさらに遡って、印欧祖語の姿を捉えておくことも求められよう。サンスクリット学者として大著<i>Altindische Grammatik</i>を著したJacob Wackernagel(1853-1938)による古典語統語論<i>Vorlesungen über Syntax</i>を講読し、最盛期における古代学のあり方に学ぶ。</p>			
【授業の概要】 <p>古典語文体論研究。ギリシア語・ラテン語の文体論に関するドイツ語論文を講読する。</p>			
【授業計画】 <p>第1学期：Jacob Wackernagel(1853-1938)による古典語統語論<i>Vorlesungen über Syntax</i>の第1巻より動詞統語論を講読する。</p> <p>第2学期：<i>Vorlesungen über Syntax</i>の第2巻より、名詞類統語論を講読する。</p> <p>第3学期：同じくJacob Wackernagelによる古典的論文"Über ein Gesetz der indogermanischen Wortstellung"を講読する。</p>			
【テキスト】			
【参考書】 <p>授業時間中に適宜指示する。</p>			
【学生に対する評価】 <p>授業時における訳出の正確さ (70%) 授業への積極的参加 (30%)</p>			

科目番号：02DD196 授業科目名： 古典古代学特殊研究 I (1)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：池田 潤
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 ヘブル語聖書という文献の特殊性を理解した上で、これを原文で読み解き、文学研究・言語研究・思想研究・歴史研究の資料として批判的に活用できるようになるための基礎を築く。			
【授業の概要】 多様な素材と地域を対象に文学の総合的研究方法を発表形式で身につける。			
【授業計画】 《1学期》 聖書ヘブル語入門 ヘブル文字と聖書ヘブル語文法の概略を確認する。 《2・3学期》 旧約聖書原典講読 今年度は『創世記』を読む予定。			
【テキスト】 とくに使用しない。			
【参考書】 最初の授業で参考文献リストを配布し、解題をおこなう。			
【学生に対する評価】 ・ 聖書ヘブル語の読解力 (50%) ・ 聖書ヘブル語ないしヘブル語聖書に関する最終レポート (50%)			

科目番号：02DD205 授業科目名： 日本文献学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：近本 謙介
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事			
【授業の到達目標及びテーマ】 寺院文芸に関する知識を獲得すると同時に、唱導文献読解能力を高める。			
【授業の概要】 南都を中心とした唱導文献について分析する。			
【授業計画】 第1回 授業の目的と方法に関する概説 第2回 南都における唱導文献読解の特色と読解方法について 第3回 文献研究の方法解説（1） 第4回 文献研究の方法解説（2） 第5回 文献研究の方法解説（3） 第6回 文献研究の実践（1） 第7回以降 文献研究の実践を繰り返す			
【テキスト】 初回の講義時に指示をする。			
【参考書】 テーマに応じて個々に指示を与える。			
【学生に対する評価】 発表及び参加態度により評価する。			

科目番号：02DD210 授業科目名： 和漢比較文学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：谷口 孝介										
科 目	教科に関する科目												
各科目に含めることが 必要な事													
【授業の到達目標及びテーマ】													
日本古代中世における漢籍受容の実態をできるだけ具体的にあきらかにすることを主な目的とする。同時に日中にわたる漢文文献の扱い方の習熟を期す。													
【授業の概要】													
『白氏文集』巻六閑適詩の注解を行う。日本所在の旧鈔本である金沢文庫本を徹底的に読解し、日本人の『白氏文集』受容の実態を照らし出すことを目指す。													
【授業計画】													
<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>講義の目的と方法</td> </tr> <tr> <td>第2回～第10回</td> <td>244番詩～246番詩の注解と討議</td> </tr> <tr> <td>第11回～第20回</td> <td>247番詩～249番詩の注解と討議</td> </tr> <tr> <td>第21回～第29回</td> <td>250番詩～252番詩の注解と討議</td> </tr> <tr> <td>第30回</td> <td>検討した詩に関する問題点のまとめ</td> </tr> </table>				第1回	講義の目的と方法	第2回～第10回	244番詩～246番詩の注解と討議	第11回～第20回	247番詩～249番詩の注解と討議	第21回～第29回	250番詩～252番詩の注解と討議	第30回	検討した詩に関する問題点のまとめ
第1回	講義の目的と方法												
第2回～第10回	244番詩～246番詩の注解と討議												
第11回～第20回	247番詩～249番詩の注解と討議												
第21回～第29回	250番詩～252番詩の注解と討議												
第30回	検討した詩に関する問題点のまとめ												
【テキスト】													
【参考書】													
その都度指示する。													
【学生に対する評価】													
発表の内容をもって評価する。													

科目番号：02DD220 授業科目名： 日本古代文学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：谷口 孝介
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事			
【授業の到達目標及びテーマ】 古代和歌の表現に習熟し、古代文学関連の文献の扱い方を学ぶことを主な目的とする。			
【授業の概要】 唐風文化から国風文化への画期と目されている承和期に焦点をしぼり、遍昭の古今集歌を取りあげて注解を施す。詩的言語の注解方法に習熟するとともに、『万葉集』から『古今和歌集』に到る古代和歌の表現形成を探求する。			
【授業計画】 第1回・第2回 講義の目的と方法 第3回～第7回 古今集847番歌の注解と討議 第8回～第10回 上記歌の位置づけ 第11回～第15回 古今集872番歌の注解と討議 第16回～第20回 古今集985番歌の注解と討議 第21回～第25回 古今集1016番歌の注解と討議 第26回～第30回 古今集遍昭歌の特質			
【テキスト】 初回の講義時に指示をする。			
【参考書】 初回の講義時及び随時指示をする。			
【学生に対する評価】 演習発表及び演習参加態度により評価する。			

科目番号：02DD225 授業科目名： 日本中古文研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：秋山 佳奈子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事			
【授業の到達目標及びテーマ】 『源氏物語』注釈史について、問題を自分のものとするために考察を進める技術、知識を得る。			
【授業の概要】 『源氏物語』注釈史を学ぶ。古注所引の歴史記述に注目し、年代記類生成の状況を探る。			
【授業計画】 第一回から第三回 『源氏物語』概説 第四回から第五回 年代記類概説 第六回 辞書等調べる道具についての概説 第七回以降 演習・研究			
【テキスト】 開講時に指示する。			
【参考書】 授業中に指示する。			
【学生に対する評価】 授業の出席と演習参加による。			

科目番号：02DD230 授業科目名： 日本中古文文学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：秋山佳奈子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事			
【授業の到達目標及びテーマ】 問題を自分で立てるために必要な知識と、調べる技術を身につける。			
【授業の概要】 『源氏物語』青表紙本系諸本と河内本系諸本とを見あわせ、注釈書、梗概書の作品理解の基盤を具体的に考察する。			
【授業計画】 第一回から第四回 『源氏物語』諸本に関する概説 第五回 辞書等調べる道具についての概説 第六回以降 演習			
【テキスト】 開講時に指示する。			
【参考書】 授業中に指示する。			
【学生に対する評価】 出席と演習参加による。			

科目番号：02DD240 授業科目名： 日本中世文学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：近本 謙介
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事			
【授業の到達目標及びテーマ】 新たな研究課題の設定と視点の獲得および研究成果の成文化			
【授業の概要】 中世文学研究の現状をふまえて議論した上で、各自が新たな視点から問題を設定して、その内容について討論する。			
【授業計画】 第1回 授業の目的と方法の説明 第2回以降 研究テーマの報告（受講生各自が報告を行うと同時に議論する。全員が終了するまでに議論を踏まえた補足と修正を行い、2度目の報告を行う。）			
【テキスト】 授業時に指示する			
【参考書】 授業時に指示する			
【学生に対する評価】 授業への出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。			

科目番号：02DD245 授業科目名： 日本近世文学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：清登 典子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事			
【授業の到達目標及びテーマ】 江戸時代中期の季題、季語の美意識とそれに基づく発句作品を読むことで近世の季節観、美意識についての理解を深める。、			
【授業の概要】 近世中期を代表する俳人でありながら、これまでその作品の研究がなされてこなかった、青蘿の発句作品を取り上げ、季題の扱い方について調べることで、彼の作品の特色について検討を加える。			
【授業計画】 1回目：作品解説、調査・発表方法について教員から説明する。担当箇所の決定。 2回目以降：各自が担当箇所について発表し、それについての質疑応答を行う。			
【テキスト】 授業時に指示する			
【参考書】 授業時に指示する			
【学生に対する評価】 授業への参加状況、発表内容、討議への参加状況などを総合して評価する。			

科目番号：02DD250 授業科目名： 日本近世文学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：清登典子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事			
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>近世の教養の基盤をなしていた謡曲についての知識教養を身につけるとともに、謡曲に基づく俳諧の発句および俳画を解釈することで、近世的表現の特色についても理解を深める。</p>			
【授業の概要】			
<p>観世流の謡曲師匠であり、俳人であった露月（1667～1751）が編集刊行した絵俳書である「俳度曲」を取り上げる。同書は観世流の謡曲名二百二十番を題とした画賛句集であり、謡曲の内容を受けた発句と俳画が集められているので、一曲ごとにその内容とそれに基づく発句と俳画の内容を読み解いていく。受講者の発表と討議により授業を進める。</p>			
【授業計画】			
<p>1回目：授業の進め方、調査・発表方法について教員から説明し、担当箇所を決定する。</p> <p>2回目以降：各自が担当箇所について発表し、それに対する質疑応答を行う。</p>			
【テキスト】			
授業時に指示する			
【参考書】			
授業時に指示する			
【学生に対する評価】			
授業への出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。			

科目番号：02DD255 授業科目名： 日本近代文学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：新保 邦寛
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事			
【授業の到達目標及びテーマ】 芥川龍之介の作品の検討を通じて、大正文学の性格に迫る。			
【授業の概要】 芥川龍之介の小説のうち、特に先行する小説のパロディーとして構想された作品を読む。芥川の関心のありようについて考えてみたい。			
【授業計画】 第1回～第10回：先行する小説を踏まえて書かれた芥川作品を取り上げ、まず、その先行作品について研究史を参照しつつ、解釈を試みる。 第11回～第20回：次に、先行する小説を踏まえた場合、芥川作品がどう解釈できるか、検討する。 第21回以降：芥川文学の特質についてあたらめて考えてみる。そして、それを通して、大正期の創作のありように迫ってみる。			
【テキスト】 テキストは原則、初出のものを用いる。			
【参考書】 取り上げた作品に係わる研究書をすべて参考書とする。			
【学生に対する評価】 発表の内容と出席で評価する。			

科目番号：02DD260 授業科目名： 日本近代文学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：新保邦寛
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事			
【授業の到達目標及びテーマ】			
各自、自身の研究テーマを明確にしつつ、論文を作成を目指す。			
【授業の概要】			
各自、自身の研究テーマに従って作品を選び、研究発表を行う。研究の独自性を明確にしつつ発表を行うこととする。			
【授業計画】			
第1回～第10回：各自の研究テーマについて、研究史や研究課題、および必要な書類を踏まえつつ、その独自性を明示する。			
第11回～第20回：研究テーマに従って具体的に作品を選び、研究発表を行い、参加者の批評を受ける。			
第21回以降：論文ないしは論文の構想を示し、参加者に意見を乞う。			
【テキスト】			
発表者が用意して出席者に配布する。			
【参考書】			
参考書の選択も演習の一貫と看做す。			
【学生に対する評価】			
発表の内容と出席で評価する。			

科目番号：02DD265 授業科目名： イギリス文学史研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：加藤 行夫
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 作品および論文を正確に読むこと。			
【授業の概要】 エリザベス朝の詩を読む。最新の研究動向を把握しつつ、新しい解釈の可能性を議論する。			
【授業計画】 第1学期 シェイクスピアのソネット集を講読する 第2学期 未定 第3学期 未定			
【テキスト】 授業で配布する			
【参考書】 その都度指示			
【学生に対する評価】 授業内の読解および発表能力			

科目番号： 02DD270 授業科目名： イギリス文学史演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名：加藤 行夫
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 イギリス初期近代の出版事情を踏まえて、初期版本の読み方を学ぶ。			
【授業の概要】 詩および劇作品の初期版本を現代諸版と比較し、その生成の事情を知る。 関連論文を読む。			
【授業計画】 授業で指示する。			
【テキスト】 授業で配布する。			
【参考書】 その都度指示。			
【学生に対する評価】 授業内の読解および発表能力。			

科目番号：02DD275 授業科目名： イギリス文学研究Ⅱ(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：佐野隆弥
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 (1)受講生に初期近代英語について習熟させる。 (2)初期近代イングランド文化に流入した西洋古典の受容について考察させる。			
【授業の概要】 エリザベス朝期のepyllionを読む。初期近代イングランドにおける神話の受容について考察する。			
【授業計画】 第1学期 第1回：ガイダンス 第2回～第10回：Venus and Adonisを演習形式で講読する。 第2学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回：Venus and Adonisを演習形式で講読する。 第3学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回：epyllionに関する先行研究を講読する。およびまとめ。			
【テキスト】 G. Blakemore Evans, gen. ed., <i>The Riverside Shakespeare</i> (Houghton Mifflin, 1997)			
【参考書】 その都度指示。			
【学生に対する評価】 (1)出席および平常点（準備の度合い、授業中の発表成績、授業時の活動状況、授業態度等）。 (2)夏期レポートおよび学年末レポート。			

科目番号：02DD280 授業科目名： イギリス文学演習Ⅱ(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：佐野隆弥
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 (1)受講生に初期近代英語について習熟させる。 (2) <i>Much Ado about Nothing</i> を中心に、シェイクスピアの祝祭喜劇の創作に作用した材源の影響について考察させる。			
【授業の概要】 シェイクスピアの祝祭喜劇を取り上げ、材源を中心に創作のダイナミズムについて考察する。			
【授業計画】 第1学期 第1回：ガイダンス 第2回～第10回： <i>Much Ado about Nothing</i> を演習形式で講読する。 第2学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回： <i>Much Ado about Nothing</i> を演習形式で講読する。 第3学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回： <i>Much Ado about Nothing</i> に関する先行研究を講読する。			
【テキスト】 Claire McEachern, ed., <i>Much Ado about Nothing</i> (Cengage Learning, 2006)			
【参考書】 その都度指示。			
【学生に対する評価】 (1)出席および平常点（準備の度合い、授業中の発表成績、授業時の活動状況、授業態度等）。 (2)夏期レポートおよび年度末レポート。			

科目番号：02DD285 授業科目名： イギリス文学特殊研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： ロンベール、ラファエル
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 <p>This course is designed to strenghten graduate students' knowledge and understanding of storytelling across the media. It emphasizes close reading, written analysis, and in-class discussion.</p>			
【授業の概要】 <p>The goal of this course is to familiarize students with the notion that a same story or event (e.g., Carmen, fairytales, the slave trade, etc.) can assume very different shapes and meanings from one work to the other. This course is also the opportunity to explore the codes and conventions of a variety of media. Finally, this course brings students to raise such key issues as who produces what, for what audience, and to what end. Ultimately, this course makes students more sophisticated consumers of media.</p>			
【授業計画】 第1回：Introduction 第2～30回：Lecture and Seminar			
【テキスト】 1. <i>A Theory of Adaptation</i> by Linda Hutcheon 2. <i>Intertextuality</i> (New Critical Idiom Series) by Graham Allen			
【参考書】 <i>Adaptation and Appropriation</i> (The New Critical Idiom) by Julie Sanders			
【学生に対する評価】 <p>Attendance is compulsory and will count toward your final grade In-class participation is essential We will read an average of 30 to 40 pages a week. A short response (at least 350 words in length) is due on a regular basis One oral presentation and one essay per trimester and per student</p> <p>In-class participation: 20% Oral presentation: 20% Responses and Term paper: 40% Attendance and punctuality: 20%</p>			

科目番号：02DD290 授業科目名： アメリカ文学史研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：宮本 陽一郎
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 経済学・思想史・アメリカ史の知識に裏付けられた、学際的な読解分析力の養成。			
【授業の概要】 <アメリカ文学における資本主義> ベンジャミン・フランクリンからポストモダンに至るアメリカ文学史のなかにおける、富・貨幣と表象とのあいだのダイナミズムを通説する。この授業は2・3学期および集中授業で行う。			
【授業計画】 第1回：序論 第2回：資本主義の文化的矛盾 第3回：マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムと資本主義の精神』 第4～6回：Benjamin Franklin, <i>Autobiography</i> . 第7～9回：Horatio Alger, Jr. <i>Ragged Dick</i> . 第10回：Judy Hilkey, <i>Character Is Capital: Success Manual and Manhood in the Gilded Age</i> 第10回 序論、第11-14回：Walter Benn Michaels, <i>The Gold Standard and the Logic of Naturalism</i> 、第15-16回：Short Stories by Dashiell Hammett 第17回：フランク・キャプラの民衆喜劇 第18回：ポップと資本主義 第19-20回 フレドリック・ジェイムソンのポストモダニズム論 集中授業に関しては後日掲示			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD295 授業科目名： アメリカ文学史演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：宮本 陽一郎
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 新歴史主義の理論と方法をマスターしたうえで、自然主義の文学作品を高度なレベルにおいて分析する力を養成する。			
【授業の概要】 ドライサーとノリスの自然主義小説を、財と欲望の表象に注目しつつ、新歴史主義的な視野から分析する。この授業は2・3学期および集中授業で行う。			
【授業計画】 第1回：序論 第2～5回： Theodore Dreiser, <i>Sister Carrie</i> 第6回： Amy Kaplan <i>Social Construct of American Realism</i> 第7～10回： Frank Norris, <i>McTeague: A Story of San Francisco</i> 第11回：序論 第12～20回 Frank Norris, <i>Octopus: A California Story</i> 集中日程は後日揭示			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD300 授業科目名： アメリカ文学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／ <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名：鷺津 浩子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 この授業は「アメリカ文学演習」と表裏一体の関係にあり、共通する目標はアメリカにおいて／について書かれたテキストを、知識史（通時）と〈知識の枠組み〉（共時）を意識して読めるようにすることである。「演習」が具体的テキスト講読に力点を置くのに対して、「研究」ではテキスト分析に必要な知識史や〈知識の枠組み〉といった概念の全体像を把握できるようにする。</p>			
<p>【授業の概要】 〈知識のコズモロジー〉 〈知識〉とは何か、〈知識〉はいかに形作られるか、〈知識〉はいかに体系化されるか、〈知識〉はいかに伝達され受容されるか——といった疑問を意識しながら、知識史（通時）と〈知識の枠組み〉（共時）について学ぶ。</p>			
<p>【授業計画】 1. Linda Kalof, Looking at Animals in Human History (Reaktion Books, 2007) Prehistory, before 5000BC/Antiquity, 5000BC-AD500/The Middle Ages, 500-1400/The Renaissance, 1400-1600/The Enlightenment, 1600-1800/Modernity, 1800-2000 2. Gary Steiner, Anthropocentrism and Its Discontents: The Moral Status of Animals in the History of Western Philosophy (U of Pittsburgh P, 2005) Introduction & Contemporary Debate on the Status of Animals/Epic and Pre-Socratic Thought/Aristotle and the Stoics: The Evolution of a Cosmic Principle/Classical Defenses of Animals: Plutarch and Porphyry/Descartes on the Moral Status of Animals/The Empiricists, the Utilitarians, and Kant/Conceptions of Continuity: Schopenhauer, Darwin, and Schweitzer/Postmodern Conceptions of the Human-Animal Boundary/Rethinking the Moral Status of Animals 3. Kathryn Shevelow, For the Love of Animals: The Rise of the Animal Protection Movement (Henry Holt, 2008) Introduction: Saved/Of Duchess and Ducks/Rude and Nasty Pleasures/Pets and the City/Dancing Dogs and Horses of Knowledge/Animal Crimes/Parliaments of Monsters/Stages of Cruelty/The Meanest Work Is Our Sister/Throw Down the Butcher's Knife/Hair-Trigger Martin and the Wolfhound/Taking the Bull by the Horns/The Unfortunate Tourist's Dog/Humanity Dick/For the Love of Animals/Conclusion: The Legacy of Animal Protection</p>			
<p>【テキスト】 Linda Kalof, Looking at Animals in Human History (Reaktion Books, 2007)/Gary Steiner, Anthropocentrism and Its Discontents: The Moral Status of Animals in the History of Western Philosophy (U of Pittsburgh P, 2005)/Kathryn Shevelow, For the Love of Animals: The Rise of the Animal Protection Movement (Henry Holt, 2008)</p>			
<p>【参考書】 鷺津浩子『時の娘たち』（南雲堂、2005年）</p>			
<p>【学生に対する評価】 (1) 授業参加（単なる出席とは異なる） (2) 専門性と学際性の融合と均衡 (3) ジャーナル掲載可能な論文の執筆</p>			

科目番号：02DD305 授業科目名： アメリカ文学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／ <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名：鷺津 浩子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 この授業は「アメリカ文学研究」と表裏一体の関係にあり、共通する目標はアメリカにおいて／について書かれたテキストを、知識史（通時）と〈知識の枠組み〉（共時）を意識して読めるようにすることである。「演習」が具体的テキスト講読に力点を置くのに対して、「研究」ではテキスト分析に必要な知識史や〈知識の枠組み〉といった概念の全体像を把握できるようにする。</p>			
<p>【授業の概要】 知識史（通時）と〈知識の枠組み〉（共時）という概念を使うことによって、アメリカ南北戦争前のテキストを読む。</p>			
<p>【授業計画】 「アメリカ文学研究」でとりあげた問題点をとりあげ、受講生各自の専門と結びつけた発表および討論をおこなう。</p>			
<p>【テキスト】 Linda Kalof, Looking at Animals in Human History (Reaktion Books, 2007)／Gary Steiner, Anthropocentrism and Its Discontents: The Moral Status of Animals in the History of Western Philosophy (U of Pittsburgh P, 2005)／Kathryn Shevelov, For the Love of Animals: The Rise of the Animal Protection Movement (Henry Holt, 2008)</p>			
<p>【参考書】 鷺津浩子『時の娘たち』（南雲堂、2005年）</p>			
<p>【学生に対する評価】 (1) 授業参加（単なる出席とは異なる） (2) 専門性と学際性の融合と均衡 (3) ジャーナル掲載可能な論文の執筆</p>			

科目番号：02DD310 授業科目名： アメリカ文学特殊研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： ロンベール、ラファエル
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 This course is designed to strenghten graduate students' knowledge and understanding of the multicultural world they live in. It emphasizes close reading, written analysis, and in-class discussion.			
【授業の概要】 Multiculturalism As a field of study, multiculturalism cuts across disciplines as varied as sociology, media studies, literary criticism, and ethnic studies. In this course, students will reflect on such themes as the relations between the self and other, History and multiple histories, and power structure, resistance, and self-assertion, with the ultimate goal of understanding the complexities, as well as the current and future impact, of multiculturalism on their lives.			
【授業計画】 第1回：Introduction 第2～30回：Lecture and Seminar			
【テキスト】 The Cultural Studies Reader (Paperback) ~ E Simon During Routledge, 3d Edition, April 2007.			
【参考書】 Press articles and other extra reading material will be distributed in class or emailed for specific activities as academic year unfolds.			
【学生に対する評価】 Attendance is compulsory and will count toward your final grade In-class participation is essential We will read an average of 30 to 40 pages a week. A short response (at least 350 words in length) is due on a regular basis One oral presentation and one essay per trimester and per student In-class participation: 20% Oral presentation: 20% Responses and Term paper: 40% Attendance and punctuality: 20%			

科目番号:02DD314 授業科目名: フランス文学史研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数: 3単位	担当教員名:小川 美登里
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目的およびテーマ】 フランス文学に関する広い視野と知識をつけることを目的とする。			
【授業の概要】 フランス文学研究に不可欠な言語運用能力、批評能力、読解・分析能力を養うと同時に、時代的・文化的な文脈のなかで文学をどう捉えるかなどといった問題にも触れる。とくに総合的な能力を高めるため、dissertationの訓練をとおしてフランス語で考え、論証する練習をおこなう。			
【授業計画】 1学期：フランス文学にかんする一般知識とフランス語での論証能力を身に付けるため、dissertationの練習を行う。文学の目的や社会との関わりといった一般的な問題から、過去のさまざまな文学運動のもたらした成果あるいは作家や作品の引用をとおして、文学の本質について考える。授業におけるディスカッションを出発点として、そこから各自で考えたことをフランス語で表現する能力を養う。 2学期、3学期：1学期で得た成果を踏まえて、具体的な批評や作品を熟読し、読解力と分析力を養う。			
【テキスト】 適宜指示するか、コピーを配布する。			
【参考書】			
【学生に対する評価】 各学期毎のレポートのほか、授業での課題、出席などを総合的に評価する。尚、この授業の受講者は「フランス文学研究」も受講すること。			

科目番号:02DD320 授業科目名: フランス文学研究 I (5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数: 3単位	担当教員名:小川 美登里
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 文学テキストの熟読作業を通じて作品を分析し、そこに内包された問題系を抽出する能力を養う。また、フランス文学という視点から他芸術との関係を問う。</p>			
<p>【授業の概要】 文学作品というジャンルのなかで、他芸術を論じている作品を扱う。文学（文字作品）が絵画（視覚芸術）や音楽（聴覚芸術）をどのように扱うのかを具体的に分析し、それによって言語操作による他芸術へのアプローチがもつ可能性と限界について考える。</p>			
<p>【授業計画】 以下の作品を取り扱う予定である。 Yves Bonnefoy, <i>Goya</i>, William Blake & Co., 2006. Pascal Quignard, <i>La Nuit sexuelle</i>, Flammarion, 2007, <i>La Haine de la musique</i>, Gallimard, 1997, Folio. Jean Echenoz, <i>Ravel</i>, Minuit, 2006. Michel Leiris, <i>L'Age d'homme</i>, Gallimard, 1973, Folio.</p>			
<p>【テキスト】</p>			
<p>【参考書】</p>			
<p>【学生に対する評価】 学期毎のレポートのほか、出席などを総合的に判断する。尚、この授業の受講者は「フランス文学史研究」も受講すること。</p>			

科目番号：02DD325 授業科目名： フランス文学研究Ⅱ(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：増尾 弘美
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 受講者各自が研究テーマの焦点を絞り、関連する参考文献を探し出して読み、論文執筆や学会での口頭発表へと発展させることができるようにする。</p>			
<p>【授業の概要】 現代フランス文学作品を講読し、それに関する批評を検討しつつ考察する。内容は受講者と相談して決める。論文の添削、口頭発表のリハーサルも行う。</p>			
<p>【授業計画】 1学期：今年度の目標設定を行い、毎時間の発表・討論により、各自の研究の焦点を絞っていく。 2学期：学内口頭発表のリハーサル。論集論文の練り直し。学位論文提出を控えている場合は詰めを行う。 3学期：学会発表に向けて、内容の練り上げとリハーサル。 以上は大まかな計画であり、詳細は受講者のスケジュールに従って決める。</p>			
<p>【テキスト】 受講者と相談して決める。</p>			
<p>【参考書】 授業中に指示する。</p>			
<p>【学生に対する評価】 授業中の発表を主とした平常点で評価する。</p>			

科目番号：02DD330 授業科目名： フランス文学特殊研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：増尾 弘美
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 仏語の研究論文を正確に読み取り、論述の展開の仕方、仏語での表現方法を学ぶ。プルーストの文学批評から長篇小説が誕生する経緯をたどり、他の作家とプルーストの関わりを見ていく。</p>			
<p>【授業の概要】 現代フランス文学の文体について、プルーストを中心に関係論文を読みながら考察する。プルーストを入り口として、19世紀から20世紀初頭の文学について追究していく。まずは生成研究の成果を踏まえて、プルーストの文芸批評が小説に変貌していく様子をとらえる。その後、フローベールの紋切型とプルーストの博識・引用がどう異なるのか、プルーストの博識と同性愛がどのような関連にあるのか、などについて見ていきたい。</p>			
<p>【授業計画】 まず生成研究の概要をつかむ。 Eugène Nicole, 《Aspects de la génétique proustienne》, <i>Bulletin d'informations proustiennes</i>, 2003, p.9-16 Kazuyoshi Yoshikawa, 《Du Contre Sainte-Beuve à la Recherche》, <i>Proust, la mémoire et la littérature</i>, Collège de France, 2009, p.49-71</p> <p>それから適宜、最近の論文を読んで考察する。 <i>Marcel Proust 1-7</i>, Minard, 1992-2009</p>			
<p>【テキスト】 <i>Bulletin d'informations proustiennes</i> Antoine Compagnon, <i>Proust, la mémoire et la littérature</i>, Collège de France, 2009</p>			
<p>【参考書】 Annick Bouillaguet, <i>Proust lecteur de Balzac et de Flaubert</i>, Champion, 2000 Mireille Naturel, <i>Proust et Flaubert: un secret d'écriture</i>, Rodopi, 1999</p>			
<p>【学生に対する評価】 授業中の発表を主とした平常点で評価する。</p>			

科目番号：02DD335 授業科目名： ドイツ文学研究Ⅰ(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：相澤 啓一
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】狭 義の文学のみならず、広く文化的観点から、19世紀から20世紀にかけてのさまざまな芸術分野の現象を分析できる能力を身につける。同時に、正確なドイツ語読解力を身につける。</p>			
<p>【授業の概要】 20世紀ドイツにおける文学と音楽や映画など周辺芸術諸領域との関連を考察する。</p>			
<p>【授業計画】 参加院生の博論テーマとの関連や希望も考慮しつつ、短めのドイツ語による理論的テキストを輪読する。定期的に院生による関連発表を組み込み、批判的議論を行なう。</p>			
<p>【テキスト】 ドイツ語によるテキストを輪読する。</p>			
<p>【参考書】 別途指示</p>			
<p>【学生に対する評価】 積極的参加と課題の達成度により評価する。</p>			

科目番号：02DD340 授業科目名： ドイツ文学研究Ⅱ(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： ヘーゼルハウス・ヘラト
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 Humoristische LiteraturBegriffsbestimmungen: Humor, Witz, Komik Textanalysen von Werken von Morgenstern, Ringelnatz, Jandl			
【授業の概要】 ドイツ文学のさまざまな詩や小説を題材を分析しつつ、レトリックを論ずる。			
【授業計画】 <div style="float: right;">Zunaechst</div> werden wir versuchen, die Begriffe „Humor“, „Witz“ und „Komik“ genauer zu bestimmen. Dabei sollen auch der etymologische Ursprung und supranationale historische Entwicklungen in der Begriffsverwendung in Europa beruecksichtigt werden. Darauf folgen genaue Textanalysen an Beispielen von einschlaegigen humoristischen Autoren des 19. und 20. Jahrhunderts (Morgenstern, Ringelnatz, Jandl). 1. Haelfte: Theoretische Problemstellungen 2. Haelfte: Praktische Textanalysen			
【テキスト】 Lektuereliste und Primaertexte werden im Unterricht vorgestellt.			
【参考書】			
【学生に対する評価】 Aktive Teilnahme, Vorbereitende Lektuere, Referate und Textanalysen.			

科目番号：02DD345 授業科目名： ドイツ文学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：相澤 啓一
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツにおける多くの文学作品はさまざまなベクトルでナショナリズムとの関連を強く持っている。それらの関連を読み解くことで、文学作品の特質や物語の特徴を分析することが可能となる場合も多い。そうした視点から芸術作品を読み取る能力を身につける。同時に、正確なドイツ語読解力を身につける。</p>			
<p>【授業の概要】 19世紀以降のドイツ・ナショナリズムをめぐる記憶と物語について考察する。</p>			
<p>【授業計画】 院生たちの希望もききつつ、多様な作品、また評論や論文などをテキストとして選択し読んでゆく。あわせて適宜、テーマに関するレポートを発表する。</p>			
<p>【テキスト】 イツ語によるテキスト。詳細は授業で決定する。</p>			ド
<p>【参考書】 別途指示</p>			
<p>【学生に対する評価】 積極的参加と課題の達成度により評価する。</p>			

科目番号：02DD350 授業科目名： ドイツ文学特講(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： ヘーゼルハウス・ヘラト
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 Fatih Akin und der Immigrantenfilm in der BRD Das Seminar beginnt mit einem Ueberblick ueber die Traditon des Immigrantenfils. Darauf folgt eine Einfuehrung in das Werk von Fatih Akin. Nach detaillierten einzelnen Filmanalysen sollen Besonderheiten und Probleme des Akinschen Werkes besonders beleuchtet werden.			
【授業の概要】 戦後ドイツにおける映像およびメディア論を扱う。Einfuehrung in die filmischen Arbeiten des deutsch-tuerkischen Regisseurs Fatig Akin. Ueberblick ueber die Tradition des Immigrantenfils in der BRD. Diskussion von Entwicklung und Tendenzen. Beispielhafte Filmanalysen			
【授業計画】 1. Trimester: Ueberblick ueber den Immmigrantenfilm in der BRD 2. Trimester: Einfuehrung in das Werk Fatih Akins 3. Trimester: Beispielhafte Filmanalysen			
【テキスト】 Film- und Textmaterial wird im Unterricht vorgestellt.			
【参考書】			
【学生に対する評価】 Aktive Teilnahme, Vorbereitende Lektuere, Referate und Filmanalysen.			

科目番号：02DD355 授業科目名： ドイツ文化研究 I (4)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 相澤 啓一 ヘーゼルハウス・ヘラト
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 将来のドイツ語関連教員生活を念頭に、ドイツ語運用能力やプレゼンテーション能力を高め、あわせてドイツ語教育の現場を体験して教授法について理解を深める。</p>			
<p>【授業の概要】 ドイツ語教授法を扱う。あわせてドイツ語の総合力を身につけるトレーニングを行い、また研究発表と討論の実践を通じて、対話的能力を涵養する。</p>			
<p>【授業計画】 部集中講義として、ドイツ語によるプレゼンテーションとディスカッションの機会を持ってもらう。ドイツ語での発表に向けて、さまざまな準備段階における指導も行う。その性格上、活動は不定期な個人レッスンの形となる場合もある。ドイツ語教育については、教案作りから授業、そして自己分析までの一連の語学教育の作業を教員の指導の下に体験してもらう。</p>			
<p>【テキスト】</p>			
<p>【参考書】 吉島茂・境一三 『ドイツ語教授法』（三修社）</p>			
<p>【学生に対する評価】 積極的参加と課題の達成度により評価する。</p>			

科目番号：02DD365 授業科目名： 中国文学史研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：小松 建男
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 中国の古文はどのように読まれてきたのかを、近世における文章分析方法から考える。			
【授業の概要】 中国近世における「文法」について考える。テキストは『古文釈義』。			
【授業計画】 一学期 東漢文・晋文を読む 二学期 唐文を読む 三学期 宋文を読む			
【テキスト】 『古文釈義』（武漢古籍書店 1986）			
【参考書】 陸徳海『明清文法理論研究』（上海古籍出版社 2007）			
【学生に対する評価】 古文についての基礎的な読解力・分析力を養うことを目的とする授業なので、丹念な語彙調査、文章構成についての的確な理解力が評価の対象となる。			

科目番号：02DD370 授業科目名： 中国文学史演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：稀代 麻也子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 歴代の著名な文人とその主要作品について概観し、別集に関する知識を得ることが本授業の到達目標である。正確によんで訳すことをテーマとする。			
【授業の概要】 『歴代別集序跋綜録』を読む。			
【授業計画】 第1学期は、「江総自序」まで読む。第2学期は、独孤及『毘陵集』の「李舟序」まで読む。第3学期は、馮延巳『陽春集』の「王鵬運跋」まで読む。			
【テキスト】 錢仲聯主編『歴代別集序跋綜録』（江蘇教育出版社）			
【参考書】 莫友芝撰・傅增湘訂補『藏園訂補 邵亭知見伝本書目』（中華書局）			
【学生に対する評価】 発表者においては正確によみ的確に訳しているかどうか、他の参加者においては疑問点を質す熱意があるかどうかによって評価する。			

科目番号：02DD375 授業科目名： 中国文学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／ <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： 稀代 麻也子・小松 建男
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 中間論文、または博士論文としてふさわしい水準の論文作成のための技能を身につけることを目的とする。			
【授業の概要】 博士論文を書き上げるために必要な指導を行う。参加者は、自らが準備しつつある博士論文の題材について報告を行うばかりでなく、他の参加者の発表に対しても、有意義な発言をすることが求められる。			
【授業計画】 一学期 参加者が、それぞれの論文作成（中間論文・博士論文など）にむけて、構想を発表し他の参加者とこれについて議論する。 二学期 作成中の論文について、進行状況を報告する。また他の参加者による助言を得る。 三学期 提出された論文に基づいての発表を行い参加者により質疑。			
【テキスト】 担当者が必要に応じて用意する。			
【参考書】			
【学生に対する評価】 本授業は、学位論文作成を目指す受講生のためのものである。したがって、文献操作、読解、問題設定の妥当性、および構想力を評価の第一基準とする。また、他の参加者の発表について適切なコメントができるかも評価の対象となる。			

科目番号：02DD380 授業科目名： 中国文学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：稀代 麻也子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 可能な限り底本に忠実な訳を作成したうえで適切な補註を施し、作品をより深く解釈することが本授業の到達目標である。正確な訳注とはどういうものか、実践を通して考えることをテーマとする。</p>			
<p>【授業の概要】 「劉太尉（傷乱）琨」・「盧中郎（感交）諶」を読む。『文選』の集注本と現存版本との比較を行い、集注の訳注を作る。各注釈者の態度を確認し、さらに作品解釈の可能性について検討を重ねる。</p>			
<p>【授業計画】 第1学期は、可能な限り底本に忠実な訳注の素案を作成し、問題点を洗い出す。第2学期は、補註の作成に重点をおいて討論する。第3学期は、できる限り正確な訳注を完成させるべく検討を重ねる。</p>			
<p>【テキスト】 『唐鈔文選集注彙存』（上海古籍出版社）</p>			
<p>【参考書】 岡村繁『文選の研究』</p>			
<p>【学生に対する評価】 発表者においては作成する資料、他の参加者においては討論における発言内容に重点をおき評価する。</p>			

科目番号：02DD389 授業科目名： 中国文学批評演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：小松 建男
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 中国口語小説の形成過程についての研究			
【授業の概要】 「桃園結義」について、『三国志通俗演義』、『三国志平話』、元曲などを比較してそれぞれの特色を考える。			
【授業計画】 一学期 『三国志通俗演義』と『三国志演義史伝』の本文比較 二学期 正史『三国志』との比較 三学期 『三国志平話』・元曲との比較			
【テキスト】 『三国志通俗演義』（『古本小説集成』所収）			
【参考書】 小川環樹『中国小説史の研究』（岩波書店 1968）			
【学生に対する評価】 近世口語語彙についての的確な理解、史書や他の文学作品との比較にもとづく分析能力によって評価を行う。			

科目番号：02DD505 授業科目名： 一般言語学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：池田 潤
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 <ul style="list-style-type: none"> ・自らの研究内容を一般言語学的視座の中に位置づけること。 ・問題を発見し、解決する能力を高めること。 ・自らの研究内容について、専門外の聞き手にも分かりやすく発表し、討論する能力を高めること。 ・ジャンル（学位論文、学術論文、一般書、その他）に最適化された文章を書く能力を高めること。 			
【授業の概要】 一般言語学に関する諸問題について、発表形式で探求する。具体的には、課程博士論文、中間評価論文を執筆中の学生、学会誌等に投稿予定の学生、学会発表を予定している学生が担当教員と多様な専門分野の学生の前で自分の研究テーマについて発表をおこない、討論をおこなう。討論能力を高めるために、一部の発表でミラーリングの手法を採り入れる。			
【授業計画】 下記のいずれかをひとつのユニットとして、1学期に3ユニット程度の発表を実施する。 【通常の発表】 1回目：口頭発表（30分）、指定討論（30分）、総括（15分） 2回目以降：自由討論（60分）、その日の討論の総括（15分） <ul style="list-style-type: none"> ・指定討論者は発表者から予め配布資料を受け取り、論点を用意すること。 ・自由討論は必要に応じて複数回繰り返す。 【ミラーリングによる発表】 1回目：ある学生が書いた文章について別の学生が口頭発表（30分）、第3の学生による指定討論（30分）、総括（15分） 2回目以降：自由討論（60分）、その日の討論の総括（15分） <ul style="list-style-type: none"> ・指定討論者は発表者から予め配布資料を受け取り、論点を用意すること。 ・自由討論は必要に応じて複数回繰り返す。 			
【テキスト】 発表者がテーマに応じて、その都度指定する。			
【参考書】 発表者がテーマに応じて、その都度指定する。			
【学生に対する評価】 発表内容（30%） 発表技術（10%） 指定討論（20%） 自由討論（10%） レポート（30%）			

科目番号：02DD510 授業科目名： 一般言語学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：臼山 利信
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 言語政策を巡る諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理・把握する。			
【授業の概要】 ソ連時代及びソ連崩壊後の中央アジア諸国におけるロシア語と基幹民族語の地位、機能、相互作用、言語教育などの質的变化について、 国家言語政策の観点から検討する。			
【授業計画】 1 旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題， 2 旧ソ連・ロシアの言語状況， 3 ポーランド及びブルガリアにおける社会言語学的調査， 4 中央アジアにおける社会言語学的調査， 5 オーストラリアにおけるロシア系移民の言語と文化の保持を巡る諸問題			
【テキスト】 授業の際に教材として文献の複写などを配布する。			
【参考書】 適宜指示する。			
【学生に対する評価】 平常点とレポートにより評価する。			

科目番号：02DD520 授業科目名： 文献言語学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：池田 潤
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 古代オリエント世界で最初に成立した人類の文字言語に対する理解を深めるべく、(1)文字言語と音声言語の違い、(2)音声言語の単位、(3)事象関連電位から見た文字類型についてともに考える。			
【授業の概要】 古代オリエントの文献（楔形文字資料、ヘブライ語聖書など）を例として、文献に立脚する言語研究の諸問題を論じる。			
【授業計画】 【1学期】 文字言語と音声言語の違い 1～10週：導入としていくつかの関連論文を講読する。 【2学期】 音声言語の単位 1～2週：概説 3～7週：実験とデータ解析（人社B613実験室） 8～10週：考察と討論 【3学期】 事象関連電位から見た文字類型 1～2週：概説 3～7週：実験とデータ解析（人社B613実験室） 8～10週：考察と討論			
【テキスト】 最初の授業でリーディングリストを配布する。			
【参考書】 Linell, P. (2005) <i>The written language bias in linguistics: Its nature, origins and transformations</i> . London: Routledge.			
【学生に対する評価】 ・毎回の授業に対するリアクションペーパー（50%） ・最終レポート（50%）			

科目番号:02DD525 授業科目名: 一般言語学特講A(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数: 3単位	担当教員名: 臼山 利信
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 現代ロシア語を巡る言語学的諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理・把握する。			
【授業の概要】 現代ロシア語の諸相を言語形式と機能という観点から洞察する作業を通して、ロシア語の言語的特徴を深く理解していく足掛かりをつくる。また同時に一般言語学的な問題意識を高める一つの契機とする。			
【授業計画】 1 ロシア語の歴史（概説）， 2 現代ロシア語の名詞述語， 3 現代ロシア語の形容詞述語， 4 現代ロシア語の前置詞 B / H A + 前置格名詞の用法， 5 現代ロシア語における英語の影響			
【テキスト】 授業の際に教材として文献の複写などを配布する。			
【参考書】 適宜指示する。			
【学生に対する評価】 平常点とレポートにより評価する。			

科目番号：02DD530 授業科目名： 一般言語学特講B(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：金 仁和
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 感情表現の意味属性を考察する。韓日両言語の感情表現の特徴を比較する。			
【授業の概要】 韓国語と日本語の感情動詞を対象とし、意味範疇に基づいて語彙の分類を試みる。語彙の意味範疇の様相や、意味範疇間の関わりなどの対照を通して、韓国語と日本語の語彙体系の相違点を考察する。			
【授業計画】 (1) 情報内容による言語表現の特徴 伝達する情報が知的（事実や事件の叙述）であるか、情的（刺激反応と関連した情緒）であるかによって、言語表現の様々な特徴を調べる。 (2) 「感情」の言語表現 情的情報の中、「感情」に関する言語表現について考える。 (3) 感情表現の語彙分類 感情表現の語彙分類を通して、意味範疇に基づいての語彙分類法を勉強する。 (4) 感情表現の慣用句 韓国語の感情表現における慣用句の種類、隠喩の種類などを調べて、日本語と比較する。 (5) 感情表現と身体語 感情表現は身体語と深く関わっている。日韓両言語における感情と身体部位との相関関係を考察する。			
【テキスト】 授業中に資料を配布する。			
【参考書】 各学期の資料に別記する。			
【学生に対する評価】 出席、発表、レポート			

科目番号：02DD535 授業科目名： 中国語文法研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：伊原 大策
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 1, 中国近世白話資料の扱い方を学ぶ。 2, 中国近世白話の読解力を身につける。 3, 中国近世白話の研究動態を知る。			
【授業の概要】 明清白話を資料に用い、歴史語法研究の手法を採用しながら、旧白話がどのような過程を経て現代漢語へと発展するに至ったかについて論じる。その際、南北間の文化と言語の差異に注目しつつ、実証的な手法で考察を加えることにより、両者間に存在する文化・言語の交流動態に目を向ける。			
【授業計画】 第1回：中国近世白話に関する文献学入門1 第2回：中国近世白話に関する文献学入門2 第3回：中国近世白話に関する文献学入門3 第4回：中国近世白話の研究動態紹介1 第5回：中国近世白話の研究動態紹介2 第6回：中国近世白話の研究動態紹介3 第7回以降：中国近世白話の読解演習			
【テキスト】 授業の際に指示する。			
【参考書】 授業の際に指示する			
【学生に対する評価】 授業の参加度とレポートによる。			

科目番号：02DD539 授業科目名： 中国語史料研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：大塚 秀明
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 百年ほど前の清朝末期から民国初期にかけての中国語の文献史料を読解すること、またそこから現代中国語につながる語彙・語法の問題点を各自が設定し、論文作成までを目標とする。論文のテーマは中国語研究や日中対照研究や文化交流研究など、さまざまなテーマが考えられる。</p>			
<p>【授業の概要】 現代中国語の形成を考えるうえで様々な問題が観察できる『京話日報』と『新青年』という清末民初の史料を中心に、あわせて周辺資料も並用し、中国語の語彙・語法を通時的観点から、また日中語彙交流の視点から考究する。</p>			
<p>【授業計画】 第1回：清末民初の言語と社会 第2回：清末民初の中国語の語法：『中国語歴史文法』太田辰夫 第3回：清末民初の中国語の語彙：『近代日中語彙交流史』沈国威 第4回～第7回：『京話日報』講読 第8回～第11回：『新青年』講読 第12回～第15回：『語絲』講読</p>			
<p>【テキスト】 講読部分は複写コピーを利用（原本は中央図書館所蔵）</p>			
<p>【参考書】 上記の2点以外は授業中に適宜指示します。</p>			
<p>【学生に対する評価】 授業中の受け答えと研究発表（レジュメ作成も含めます）により評価します。</p>			

科目番号：02DD555 授業科目名： 応用言語学基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：砂川有里子ほか 応用言語学領域教員全員
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 学術的な研究能力を高めるとともに、アカデミックキャリア形成のための基本的な情報を提供する。			
【授業の概要】 応用言語学において基盤となるものの見方や考え方などを、講義や議論を通して深めていく。			
【授業計画】 1学期の水曜5・6限目に応用言語学基礎論の授業を行う。 毎月開催される応用言語学月例会に参加する。			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD565 授業科目名： 応用言語学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：宮本エジソン正
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 This is a class on experimental psycholinguistics. Students are required to design and run a hypothesis-testing experiment			
【授業の概要】 The lectures will cover issues in hypothesis testing and experimental design: <ul style="list-style-type: none"> - how to formulate a testable hypothesis - what responses to measure and how to measure them - how to address confounding factors - how to further discriminate between alternative explanations for a given set of results 			
【授業計画】 第1回～第5回：Basic background lectures and discussions 第6回～第10回：Students choose a topic and design an experiment 第11回～第15回：Prepare the experiment (stimuli, software, and so on) 第16回～第20回：Recruit participants and conduct the experiment 第21回～第30回：Analyze the results and consider possible follow-up experiments			
【テキスト】 There is no textbook, but students are required to read the following before classes start: Thomas S. Kuhn (1962) The Structure of Scientific Revolutions (科学革命の構造 トーマス・クーン. みすず書房)			
【参考書】 Papers and book chapters will be assigned during classes.			
【学生に対する評価】 Students will be evaluated based on class presentations and progress of their projects.			

科目番号：02DD570 授業科目名： 応用言語学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：砂川 有里子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 談話分析に関する最近の動向を紹介し、基本的な文献を講読する。また、各自の研究テーマを設定して会話を分析する。			
【授業の概要】 日本語母語話者の談話理解と談話産出をつかさどる文法的な要因を考察し、外国人に対する日本語教育を行う上での基礎理論について議論する。			
【授業計画】 1 学期：談話分析・会話分析に関する基本文献の講読 2 学期：会話資料の収集と書き起こし。各自の研究テーマに沿った先行研究の講読。 3 学期：会話資料の分析。各自の研究テーマに沿った論文執筆。			
【テキスト】 特になし			
【参考書】			
【学生に対する評価】 授業での活動と期末論文			

科目番号：02DD575 授業科目名： 応用言語学論文演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：石田プリシラ
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 The principal aim of this course is to broaden students' grasp of recent research in the field of phraseology. This year we will focus on the question of how L2 learners comprehend and acquire phraseological units (see below). A secondary aim of this course is to provide students with the opportunity to develop their ability to discuss linguistics research and give oral presentations in English.</p>			
<p>【授業の概要】 This course will explore research about L2 learners' comprehension and acquisition of idioms, collocations, and other phraseological units. We will begin with an overview of past studies of L2 idiom comprehension and consider some of the differences between L1 and L2 idiom comprehension (Term 1). Then we will look at current research on L2 learners' comprehension and acquisition of phraseological units, with particular attention to the methods of investigation used (Term 2). Students will also be required to do an independent research project on a course-related topic of their choice (Terms 2 and 3). Classes will be conducted in English and Japanese.</p>			
<p>【授業計画】 Term 1 (第1回～10回)： Readings/discussion Readings from the text (see below) will be assigned at the beginning of the term. Term 2 (第11回～20回)： Oral presentations/discussion Students will present and discuss course-related readings of their choice. Term 3 (第21回～30回)： Research project Students will present the results of their independent research projects.</p>			
<p>【テキスト】 Liu, Dilin. 2008. <i>Idioms: Description, Comprehension, Acquisition, and Pedagogy</i>. New York: Routledge.</p>			
<p>【参考書】 Cowie, A.P. (ed.). 1998. <i>Phraseology: Theory, Analysis, and Applications</i>. Oxford: Oxford University Press. Granger, Sylviane and Fanny Meunier (eds.). 2008. <i>Phraseology in Foreign Language Learning and Teaching</i>. Amsterdam: John Benjamins. Schmitt, Norbert (ed.). 2004. <i>Formulaic Sequences: Acquisition, Processing, and Use</i>. Amsterdam: John Benjamins.</p> <p>※Additional references will be given at the beginning of Term 1.</p>			
<p>【学生に対する評価】 Students will be evaluated on the basis of class participation (30%), oral presentations (30%), and an independent research project (40%).</p>			

科目番号：02DD580 授業科目名： 日本語教育学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 松崎 寛(9月着任予定)
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標】			
研究論文の講読を通じ、クリティカルに物事を捉え、問題を解決するための基礎的な力を身につける。また、それにより、自身が論文を執筆する際、学界における研究の位置づけを問いつつ存在意義を他人が納得できる形で示せるような他者の視点を身につけることを期待している。			
【授業の概要】			
日本語教育方法の改善に役立つ実験や調査を行っている論文を取り上げ、その研究における仮説の立て方、対象者の選定方法、調査実験等の方法論に関する問題点および修正点を考え、結果及び考察における推論の妥当性を検討し、教育学研究における意義について議論する。			
【授業計画】			
第1～2回 日本語教育学研究を行うための「批判的検討」はいかにあるべきかを問う 第3～30回 各受講生が順番に、何かひとつ文献を取り上げ、解説用レジюмеを作成して発表する。発表予定の論文は、1週間前の授業時に他受講生に配布。各自熟読して内容を把握し、問題意識をもって討論にあたる。			
【テキスト】 特になし。			
【参考書】 授業中に指示する。			
【学生に対する評価】 授業参加（発表内容、討論参加）が50%、期末レポート「日本語教育方法学研究の展望」が50%。			

科目番号：02DD585 授業科目名： 日本語教育学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：一二三朋子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 日本語教育に関する論文を渉猟し、さまざまな研究手法を知ること为目标とする。			
【授業の概要】 学生が中心となって、論文の講読や討論を行う。			
【授業計画】 1学期（1～10回）論文講読 2学期（11～20回）研究方法に関する討論、3学期（21～30回）各自の研究テーマの発表			
【テキスト】			
【参考書】 授業初日に紹介			
【学生に対する評価】 授業の出席70%以上。授業への参加度・提出物などから総合的に評価。			

科目番号：02DD590 授業科目名： 日本語構造論研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：杉本 武
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 コーパスの適正な利用法について理解を深めるとともに、用例に基づく記述的研究の意義を見直し、その方法論を身につける。			
【授業の概要】 コーパスを利用した現代日本語文法の分析を行う。コーパスについての理解を深め、それに適した分析法について考察しながら、現代日本語の助動詞等の分析、記述を行う。			
【授業計画】 第1回～第4回：コーパス言語学およびコーパスを用いた文法研究の概観 第5回～第10回：コーパスを用いた助動詞等の分析 第11回～第30回：受講者による研究発表			
【テキスト】 特に無し。			
【参考書】 ホームページ(http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sugi/syllabus/SSJL.html)に掲載。			
【学生に対する評価】 授業への参加度と研究発表を総合して評価する。			

科目番号：02DD595 授業科目名： 日本語構造論演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／ <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名：沼田 善子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 			
【授業の概要】 現代日本語文法の諸現象について、受講者の発表とそれに対する討論を通し、考察する。ここでの考察は、他言語との比較対照もできる限り交えながら、日本語教育等への応用を視野に入れて進める。今年度は主題・とりたててに関わる現象を中心に扱う。			
【授業計画】 第1回～第30回：受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論			
【テキスト】 特に無し。			
【参考書】 授業時に指示する。			
【学生に対する評価】 授業時の発表と討論への参加のあり方を相互的に判断して、評価する。			

科目番号：02DD600 授業科目名： 対照言語学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：澤田 浩子
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>ある対象の「属性」や「能力」「評価」を発話するとはどのような行為かについて全体的理解を深め、その記述・分析を行うのに際しどのような概念が必要となるのか考察を行う。特に構文論的観点と談話論的観点の両面から複合的にデータを観察する力を身につけることを目指す。</p>			
【授業の概要】			
<p>語彙・文法だけでなく、コミュニケーションや音声言語にも着目し、言語対照研究の新たな領域の開拓を目標とする。1学期は主に構文論的観点から、2学期は主に談話論的観点から講義およびデータの分析、ディスカッションを行う。3学期は各自受講生が、日本語及び他言語との対照から具体的な談話データを用い考察し、概念の有効性を検証する。</p>			
【授業計画】			
<p>第1～10回：主に構文論的観点からの講義とディスカッション 第11～20回：主に談話論的観点からの講義と実際のデータ分析・ディスカッション 第21～30回：受講者による研究発表</p>			
【テキスト】			
特になし。			
【参考書】			
授業中に指示する。			
【学生に対する評価】			
授業中のディスカッションへの貢献、研究発表などを総合的に判断する。			

科目番号：02DD605 授業科目名： 対照言語学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：竹沢幸一
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 対照研究（生成比較統語論）の方法論および日本語に関わる対照研究の最近の動向に対する理解を深めるとともに、それに基づいて受講者各自の研究を進展させる。			
【授業の概要】 日本語を中心に言語間の比較・対照を行いながら、人間言語の文法の個別性と普遍性について記述的及び理論的に考察を行う。			
【授業計画】 1学期： 日本語統語論および比較統語論の最近の研究動向の解説 2学期： 関連論文に基づく討論 3学期： 受講者による論文発表と討論			
【テキスト】 TBA			
【参考書】 授業で指示する			
【学生に対する評価】 授業への参加度50%、ファイナルレポート50%			

科目番号：02DD610 授業科目名： 日本語音韻研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：那須 昭夫
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 日本語の音韻現象についての知識を広げながら、音韻理論（生成音韻論・最適性理論）の目的および意義について理解を深めるとともに、具体的な音韻分析の手法について学ぶ。個々の音韻現象の背後に働く原理を見い出す力、ならびに、理論的観点から見た当該の現象の意義について自ら考察する力を培うことを目標とする。			
【授業の概要】 最適性理論の観点から各種の音韻現象を分析した近年の論考の講読を通じて、日本語の音韻現象に対する理論的分析の可能性について考察する。			
【授業計画】 （1 学期）音韻理論の基本的な考え方・生成音韻論の展開の経緯・近年の最適性理論の動向について解説する。講読を進めながら、主に音韻規則と派生の関係について考察する。 （2 学期）講読を進めながら、取り上げられている音韻現象の特性ならびに分析の妥当性について検討する。主に、派生理論と制約理論それぞれの利点・弱点について考察する。 （3 学期）順次講読を進めながら、取り上げられている音韻現象の特性ならびに分析の妥当性について、制約の相互関係がもたらす分析上の効果に注目しながら考察する。			
【テキスト】 田中伸一『日常言語に潜む音法則の世界』（開拓社）			
【参考書】 関連する論文を授業中に適宜紹介する。（関連論文も講読の対象とする。）			
【学生に対する評価】 講読（発表）の内容、討議への貢献度、および理論的分析に対する習熟の度合いをもとに評価する。			

科目番号：02DD615 授業科目名： 日本語文法研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：矢澤 真人
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 文法研究に必要な概念を理解し理論立てを身につけるとともに、実際の言語現象と照らし合わせて検証する方法を身につける。			
【授業の概要】 現代日本語の様々な文法現象について、理論的な位置づけと現象面での検証との双方から検討を加えていく。本年度は、日本語のアスペクトに関する研究を追い、それがもたらした影響を考えていく。 なお、受講者は、自分の研究テーマに即した題材でよいので、最低一回は発表することが期待される。			
【授業計画】 1) ガイダンス (第1週) 本年度の授業全般について説明するとともに、基本的な文献を紹介する。 2) 1970年代以前のアスペクト研究とその方法 (第2～5週) 明治期における「完了」の概念の導入から金田一(1955)までの研究について概説する。 3) 1970年代のアスペクト研究 (第6週～第10週) 金田一以降、奥田(1978)以前の研究について、概念規定や方法論も含めて検討する。 4) 1980年～2000年のアスペクト研究 (第11週～第15週) 森山や工藤など、さまざまなアプローチで取られた概念や方法論について検討する。 5) 2000年以降のアスペクト研究 (第16週～第25週) Vendlerの分類を再検討するとともに、telicityの概念や日本語への当てはめについて検討する。 6) アスペクトと他のカテゴリーとの相関 (第26週～第30週) テンスばかりでなく、ヴォイスやモダリティなどとの関連や、格体制や副詞的修飾などの関連などを検討する。			
【テキスト】 配付資料および発表者の発表資料による			
【参考書】			
【学生に対する評価】 年1回以上の発表を義務とし、その発表と、討議への参加を元に評価する。			

科目番号：02DD620 授業科目名： 日本語史研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：坪井 美樹
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 日本語の文法概念を担う形式の歴史の変遷、特に古代日本語と近代日本語との違いについて理解する。			
【授業の概要】 日本語文法史の問題として、「〈連用形接続形式〉と〈テ形接続形式〉」をテーマに論ずる。①狭義アスペクト形式（～ツヅケル、～オウル等と～テイル、～テアル等）②広義アスペクト形式（～ミル、～オク等と～テミル、～テオク等）③授受表現形式（～ヤル、～タマフ等と～テヤル、～テモラウ等）などをとりあげ、それぞれの歴史の変遷について考える。			
【授業計画】 1 学期 〈連用形接続形式〉と〈テ形接続形式〉について講義形式で解説した後、①狭義アスペクト形式の歴史の変遷について演習形式で議論する。 2 学期 ②広義アスペクト形式の歴史の変遷について演習形式で議論する。 3 学期 ③授受表現形式の歴史の変遷について演習形式で議論する。			
【テキスト】 使用しない。			
【参考書】 ・坪井美樹『日本語活用体系の変遷 増訂版』笠間書院 ・金水敏『日本語存在表現の歴史』ひつじ書房 ・鈴木泰『古代日本語時間表現の形態論的研究』ひつじ書房			
【学生に対する評価】 演習の内容および授業への参加状況によって評価する。			

科目番号：02DD625 授業科目名： 日本語史料研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：大倉 浩
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 文献資料を実際にひもとき、日本語史資料の扱いに慣れる。変体仮名に慣れ、また狂言という芸能について、ビデオや実際の舞台を観て知識を深める。その上で、他の狂言台本と読み比べることで、中世日本語から近世日本語への語彙や語法の変遷について、様々な問題を設定できる目を養う。</p>			
<p>【授業の概要】 実際の資料をひもときながら、日本語史の問題、語彙・語法を中心に考える。1730年刊の版本狂言記（狂言記拾遺）を他の狂言台本と比較し、実際の舞台のビデオも使いながら出自や資料性について考える。</p>			
<p>【授業計画】 第1回～第4回：狂言史および日本の芸能史 第5回～第6回：狂言台本解題 第7回：狂言記について 第8回～第28回 『狂言記拾遺』を講読、参加者による他台本との比較 第29回～第30回：狂言の展開、資料性についてのまとめ 現役の狂言師による実演指導を含む特別講義も予定している。</p>			
<p>【テキスト】 享保十五年刊『狂言記拾遺』版本のコピーを配布</p>			
<p>【参考書】 授業時に適宜説明する。</p>			
<p>【学生に対する評価】 まずは授業に参加し、資料を読み他台本との比較を経験することが第一。 その上で、各自の専門や研究上の興味に従って、自由に問題を設定できるような史料への柔軟なアプローチができたかどうかで評価する。</p>			

科目番号：02DD630 授業科目名： 現代日本語研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/ <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名：橋本 修
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 当該領域の先行研究を読み、自らの調査・分析を発表し討議することによって、当該領域で自ら問題設定を行い研究を進めていく能力を向上させる。			
【授業の概要】 現代日本語の主として意味論・語用論的テーマについて、古典語・方言・他言語との対照も含め検討する。導入としては移動・変化動詞文に関する川野2009を読む。			
【授業計画】 1学期 導入（一部レクチャーと、論文の講読・発表例の提示） 移動・位置変化動詞構文他についての論文講読・討議 2学期 意味論・語用論における最近の研究（対照研究・古典語研究等を含む）の検討 受講者の興味に沿った発表・討議 3学期 受講者の興味に沿った発表・討議 一部周辺事象の検討 まとめ			
【テキスト】 なし 当初は論文等の資料を教員が用意する。			
【参考書】 『方言の文法』 佐々木冠他著 岩波書店(シリーズ方言学2) 『日本語存在表現の歴史』 金水敏著 ひつじ書房			
【学生に対する評価】 議論への参加・貢献度、発表の内容、出席を総合的に勘案。			

科目番号：02DD635 授業科目名： 日本語学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：大倉・坪井・矢澤・ 橋本・那須
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 受講者各自の研究テーマについて、適切な問題設定を行い分析し、発表・論文にまとめ上げていく能力を培う。			
【授業の概要】 日本語研究の方法と実践をテーマとする演習。受講者の研究発表とそれについての討論を中心に進める。			
【授業計画】 第1回：オリエンテーション 第2回～受講者による発表と討議（場合によりゲストスピーカーによる講演等を含む） 第30回：討議のまとめ			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD640 授業科目名： 認知意味論(5)	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 和田 尚明・廣瀬 幸生
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 <p>認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用い自らの言葉でまとめることができる（解説できる）ようになることが到達目標である。今年度は、主に、言語における主体性と時制の文法的小よび意味・語用論的問題を考察する。</p>			
【授業の概要】 <p>言語における主体性と時制の文法的小よび意味・語用論的問題について、日英語を比較対照しながら考察する。</p>			
【授業計画】 1学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ 2学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ 3学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ			
【テキスト】 第1回目の授業時に指示。			
【参考書】 授業時に随時指示。			
【学生に対する評価】 <p>評価は、プレゼンテーションの内容と学年度末のタームペーパーの内容を総合して行う。</p>			

科目番号：02DD645 授業科目名： 生成統語論(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： 加賀 信広・島田 雅晴
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 生成統語論的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用い自らの言葉でまとめることができる（解説できる）ようになることが到達目標である。今年度は、話題化および倒置にかかわる問題をとりあげる。			
【授業の概要】 主に英語と日本語の文法現象に言及しながら生成統語論における研究の目的および手法を確認し、今後の発展の可能性を探る。			
【授業計画】 1学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ 2学期 第1回 イン트로ダクション 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ 3学期 第1回 イン트로ダクション 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ			
【テキスト】 第1回目の授業時に指示。			
【参考書】 授業時に随時指示。			
【学生に対する評価】 評価は、プレゼンテーションの内容と学年度末のタームペーパーの内容を総合して行う。			

科目番号：02DD655 授業科目名： 生成音韻論(5)	教員の免許状取得のための 必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名：山田 宣夫
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>最適性理論の出発点となるPrince and Smolensky (2004)を前年度に引き続き読み、同理論をさらに理解するとともに、今後の発展の可能性を検討する。</p>			
【授業の概要】			
<p>最適性理論の視点から英語の音韻現象を考察し、同理論の長所と問題点（あるいは限界）を明らかにする。</p>			
【授業計画】			
<p>第1回～第4回：最適性理論出現までの経緯と同理論の概要をまとめる。 第5回～第15回：普遍的制約の相互作用に基づく音韻現象の説明に焦点を当てる。 第16回～第25回：音節理論の詳細について学ぶ。 第26回～第30回：最適性理論に基づく今後の研究の可能性と限界について考える。</p>			
【テキスト】			
<p>Prince, A. and Smolensky (2004) Optimality Theory: Constraint Interaction in Generative Grammar. MA: Blackwell</p>			
【参考書】			
<p>Archangeli, D. and D.T.Langendoen (eds.) (1997) Optimality Theory: An Overview. Oxford: Blackwell. Kager, R. (1999) Optimality Theory. Cambridge: Cambridge University Press.</p>			
【学生に対する評価】			
<p>高度な内容の専門書と日頃どの程度真剣に格闘しているかを見て評価する。</p>			

科目番号：02DD660 授業科目名： 英語意味論演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 廣瀬 幸生・和田 尚明
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を 会得するようになることが到達目標である。今年度は、機能論研究に関する文献・論文を題材にする。			
【授業の概要】 認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言 語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。今年度は機能論研究の論文を中心に行な う。			
【授業計画】 1学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ 2学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ 3学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ			
【テキスト】 特になし			
【参考書】 授業時に随時指示。			
【学生に対する評価】 評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。			

科目番号：02DD665 授業科目名： 英語統語論演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 島田 雅晴・加賀 信広
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 <p>独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。今年度は、主に比較統語論をテーマとする。</p>			
【授業の概要】 <p>生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。今年度は比較統語論研究の論文を中心に行なう。</p>			
【授業計画】 1学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ 2学期 第1回 イン트로ダクション 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ 3学期 第1回 イン트로ダクション 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ			
【テキスト】 特になし。			
【参考書】 授業時に随時指示。			
【学生に対する評価】 <p>評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。</p>			

科目番号：02DD675 授業科目名： フランス語学研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：青木 三郎
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 <p>フランス語学演習と連動して、フランス語と日本語の比較対照研究の課題と方法論を学ぶ。</p>			
【授業の概要】 <p>フランス語の構造と機能に関する文献を講読しながら、フランス語のとりくむ問題を明確にする。具体的には学期ごとにテーマを決めて文献を紹介し、議論を重ねていく。</p>			
【授業計画】 <p>第1学期 フランス語の統語的特性 第2学期 フランス語の意味構造と語彙的特徴 第3学期 フランス語の統語・意味機能と談話における制約現象</p>			
【テキスト】 <p>開講時に指示する。</p>			
【参考書】 <p>授業の進行に合わせて紹介する。</p>			
【学生に対する評価】 <p>出席、授業中の議論への参加、課題に関するレポート（あるいは小論文・発表）を総合的に鑑みる。</p>			

科目番号：02DD680 授業科目名： フランス語学演習(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：青木 三郎
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語と日本語の比較対照研究の課題と方法論を学ぶ。			
【授業の概要】 フランス語学の取り組むべき問題をテーマ化し、文献の批判的検討、データ観察を行う。特に日本語との比較対照が可能になるように指導をしていく。			
【授業計画】 第1学期 フランス語の人称代名詞の諸問題 第2学期 フランス語と日本語の感動詞の諸相 第3学期 フランス語と日本語のモダリティの諸相			
【テキスト】 開講時に指示する。			
【参考書】 授業の進行に合わせて紹介する。			
【学生に対する評価】 出席、授業中の議論への参加、課題に関するレポート（あるいは小論文・発表）を総合的に鑑みる。			

科目番号：02DD684 授業科目名： フランス語意味論(4)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：渡邊 淳也
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語意味論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。			
【授業の概要】 フランス語（および、関連する範囲で他のいくつかの言語）におけるモダリティについて研究する。 この時間はとくに、否定の問題に焦点をあてる。			
【授業計画】 関連する論文の講読、討論、および研究発表をとりまぜて行なう。詳細は初回授業のときに全員で相談のうえ決定する。 この科目は、「フランス語文法論」と相互に密接に関連づけて実施するため、原則として両方を同時に履修していただきたい。			
【テキスト】 Floriric, F. (Ed.) (2007) : La négation dans les langues romanes, John Benjamins.			
【参考書】 必要に応じて随時提示する。			
【学生に対する評価】 授業中に順次担当していただく発表に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。			

科目番号：02DD689 授業科目名： フランス語文法論(4)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：渡邊 淳也
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語文法論の最新の研究動向をふまえて、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。			
【授業の概要】 フランス語（および、関連する範囲で他のいくつかの言語）における動詞の時制について研究する。 この時間はとくに、フランス語の単純過去、複合過去、半過去（ならびに他言語で対応する時制）に焦点をあてる。			
【授業計画】 関連する論文の講読、討論、および研究発表をとりまぜて行なう。詳細は初回授業のときに全員で相談のうえ決定する。 この科目は、「フランス語意味論」と相互に密接に関連づけて実施するため、原則として両方を同時に履修していただきたい。			
【テキスト】 Barceló, G. J. et J. Bres (2006) : Les temps de l'indicatif en français, Ophrys.			
【参考書】 必要に応じて随時提示する。			
【学生に対する評価】 授業中に順次担当していただく発表に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。			

科目番号：02DD691 授業科目名： フランス語学特講(1)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 青木 三郎・渡邊 淳也
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 フランス語学のテーマに関して、自ら問題を設定し、解決する手続き、表現方法などを習得する。			
【授業の概要】 受講生の設定するフランス語学の研究課題に関して、研究動向、発想の仕方、文献の収集・批判の仕方、結論の導き方、議論の仕方などを具体的に指導する。			
【授業計画】 年間の授業は前半は青木が担当し、後半は渡邊が担当する。 第1学期 受講生の研究紹介 第2学期 受講生の研究課題に関する助言と指導 第3学期 リサーチデザイン、論文指導			
【テキスト】			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD704 授業科目名： ドイツ語学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：大矢 俊明
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語の歴史的変遷に関する知識を習得し、併せてドイツ語の訳読能力の向上を目指す。			
【授業の概要】 ドイツ語学に関する文献を講読しながら、個々の問題について議論する。			
【授業計画】 参考文献の精読と議論をとりまぜて行なう。詳細な日程は毎学期初回の授業において決定する。			
【テキスト】 最初の授業の際に指示する。			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD715 授業科目名： ドイツ語意味論(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：伊藤 眞
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語の歴史の変遷に関する知識を習得し、併せてドイツ語の訳読能力の向上を目指す。			
【授業の概要】 ドイツ語で書かれた意味論関係の原書文献を精読し、意味論に関する知識を深め、併せてドイツ語読解能力の向上を目指す。原書文献については、最初の授業の際に、受講者と相談の上、決定する。ドイツ語のある程度以上の文法力、理解力を持っていることが受講の最低条件である。			
【授業計画】 1学期 原書で書かれた文献を精読し、ドイツ語の読解力、文法能力を向上させる。 2学期 引き続き文献を精読しながら、ドイツ語意味論の重要なトピックについて議論する。 3学期 引き続き文献を精読しながら、ドイツ語意味論の重要なトピックについて議論する。			
【テキスト】 プリントを用いる。具体的な内容については受講者と相談する。			
【参考書】			
【学生に対する評価】			

科目番号：02DD720 授業科目名： ドイツ語文法論(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：大矢 俊明
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語の歴史の変遷に関する知識を習得し、併せてドイツ語の訳読能力の向上を目指す。			
【授業の概要】 現代ドイツ語におけるさまざまな構文を、英語ならびに日本語と比較対照しながら既存の分析の妥当性を検証する。			
【授業計画】 1学期 各自がドイツ語（および英語）で書かれた「基本文献」を読み、その内容を発表する。さらにそこで明らかになった問題点について議論する。 2学期 各自がドイツ語（および英語）で書かれた「ドイツ語と他言語との対照」を扱った文献を読み、その内容を発表する。さらにそこで明らかになった問題点について議論する。 3学期 各自がドイツ語（および英語）で書かれた「ドイツ語と他言語との対照」を扱った文献を読み、その内容を発表する。さらにそこで明らかになった問題点について議論し、正しい一般化を試みる。			
【テキスト】 最初の授業の際に指示する。			
【参考書】			
【学生に対する評価】 1) 与えられた文献を読み、その内容を発表し、2) 積極的に議論に加わることが求められる。			

科目番号：02DD725 授業科目名： ドイツ語史研究(5)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：伊藤 眞
科 目	教科に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項			
【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語の歴史の変遷に関する知識を習得し、併せてドイツ語の訳読能力の向上を目指す。			
【授業の概要】 ドイツ語史研究については、近年、言語的変遷だけを扱うのではなく、言語的変化の遠因となった、社会的・文化的要因にも目を向けた研究書が出版されている。本授業では、ドイツ語史を扱った原書文献を精読し、ドイツ語の歴史の変遷に関する知識を習得し、併せてドイツ語の読解・訳読能力の向上を目指す。また、Frakturで書かれた文献を読みこなす能力の習得にもある程度の時間をさく予定である。			
【授業計画】 1学期 原書で書かれた文献を精読し、ドイツ語の読解力、文法能力を向上させる。 2学期 引き続き文献を精読する。あわせて特定の文法事項に関して議論する。 3学期 引き続き文献を精読する。あわせてドイツ語の歴史の変遷に関する特定のテーマについて議論する。			
【テキスト】 プリントを用いる。具体的な内容については受講者と相談の上、決める。			
【参考書】			
【学生に対する評価】			